

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

合言葉を『三笠はひとつ、三笠はならのまほろば』とし、奈良の中心地としての伝統や文化・誇りを再確認し、新たな郷土愛や誇りを育む

今年度の取組紹介

○子ども未来会議

「私たちのまち、三笠中学校区 子どもが好きなおすすめスポット」をテーマに開催しました。各校で前もって校区内にあるおすすめスポットについて情報を用意しておき、中学生も含めて交流しました。地域の方が司会進行、中学生がまとめ役を行い、和やかな雰囲気でした。校区の小学生・中学生・大人が自分たちの未来を一緒に考える良い機会となりました。



○なら三笠まほろば文化祭

幼稚園・小学校・中学校・地域の文化交流会を開催しました。日頃の練習の成果を存分に発揮し、客席からは拍手や声援が送られ大好評で、子どもたちは素晴らしい出会いと感動を感じることができました。また、当日の司会や、裏方としての運営にも地域の方と中学生が「協働」で行い、大きな達成感を味わえるイベントとなりました。



今年度のまとめ

今年度も、ドッジボール大会により小学校間の交流を深めたり、校区内の幼小中で「ノーメディアデー」キャンペーンや私の好きな漢字「一文字」の取組を実施し、各家庭への働きかけを行ったり、未来会議を通じて、大人と意見交流をして自分の考えを伝えたり、100年会館の大ホールで日頃練習してきた成果を披露したり、様々な視点で地域の子どもたちへの取組を進めていくことができました。各事業とも回を重ね、コーディネーターの動きもスムーズに行われています。さらに運営も小学校校区ごとに持ち回り、各々スキルアップしています。今年度も、校区内の教職員と地域の合同研修の実施など教職員の意識改革を推進していく取組も行いました。これらの事業や日々の活動を三笠中学校のHPで公開し、取組の総括（アンケート結果）なども掲載して、広く情報公開に努めました。

来年度に向けて

今後、これまで取り組んできた8年間の軌道を修正しつつ推進していきます。具体的には、各事業内容をさらに魅力あるものとするため工夫や精選をすると同時に、活動目標に照らし合わせ各事業を共に作っていくという参加者の協働意識を育めるよう取り組んでいきます。また、地域の方も各種団体の委員を兼ねている方が多く、教職員の人事異動も考えると関わる人材の裾野を広げ、幅広い方々に関わっていただけるよう展開していく必要があります。各事業の継承、運営する人材の確保という観点からも、これからの取組の情報発信により力をいれ、さらに地域と共にある学校づくりに努めていきます。

めざす子ども像 郷土を愛し 夢と希望をもち 自分自身に誇りをもって 未来を切りひらく子ども

取 組 目 標 保護者・地域と連携し特色ある学校・地域づくりを協働する。

今年度の取組紹介

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の四つの部会である「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の実働組織である「地域連携」として位置づけ活動しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み、課題の解決に努めています。教員が子どもと向き合う時間確保のため、図書ボランティア、放課後や土曜日などの課外授業から、キャリア教育・防災学習など教育課程内にも支援を広げています。さまざまな実社会での経験を持つ大人が工夫を凝らした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながっています。また、地域まつり・清掃活動等に参加し、地域の方々との活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育み「生きる力」を培ってきています。特に進路に向けた面接練習として、企業勤務経験者などの地域住民が面接官となり、目前の高校進学だけでなく勤労観・職業観を養い、社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。6回目となる地域スポーツフェスティバルも地域・小中教員の交流を深め、地域住民・小中 PTA のネットワークを高め、地域プライドの醸成を図っています。



今年度のまとめ

生徒が地域に出向いてボランティア活動を行い、地域の中で存在感を発揮することによって、地域や周りの方々に喜んでもらえるだけでなく、自分自身をさらに成長させることができました。地域まつり等では、参加して楽しむだけの側ではなく、地域の大人や教員と一緒に運営・主催する立場として参加し、司会をはじめとする運営スタッフとして地域に貢献しました。このような活動を通して、多くの大人たちに評価をいただき、自己有用感を味わい、地域や保護者の方々に支えられながら、生徒ひとりひとりが育ち成長することにつながりました。

来年度に向けて

コミュニティ・スクールの実働組織である地域連携部としての組織や活動内容を大きく変えることなく、その力を学校づくりと地域コミュニティづくりの一つになるようにと考えます。そして、学校や子どもたちや地域のために活動することを通して、『みんなで支え、みんなで育てる』と同時に『学校・地域 みんなが育つ』ための核となる組織づくりを目標にさらに取り組んでいきます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

世界にはばたく世界で活きる椿井っ子

今年度の取組紹介

奈良市の中心部に位置し、多くの社寺や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方は愛校心が強く、また、学校教育に対する関心も高いです。そのため、何事にも協力的です。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成をめざして取組を進めました。

今年度の取組の特徴的なものとして、「名人に学ぶ」事業の「ようこそ絵手紙名人さん」を実施しました。地域の方のコーディネートで絵手紙を教えてくださいとの方々に複数おいいただき、各学年が教えていただきました。実物を前にし、アドバイスをいただきながら、それぞれの作品ができました。この絵手紙の取組はそのとき一度のことではなく、季節ごとに自分たちで取り組みました。学校の研究主題として取り組んでいる「言葉豊かに思いを伝え、学び合える子どもの育成」にのっとり、各学年の作品を互いに鑑賞し合いました。また、ギャラリーのように掲示することで、保護者や地域の方にも見ていただくことができました。



今年度のまとめ

本事業をとおして、地域の方とともに多様な教育活動を展開することができました。子どもたちが、多くの人たちとの関わりから、自分たちの住んでいる地域の素晴らしさを再発見することができました。また、学習や交流を通して、一つ一つの事象や歴史に、その時々に関わった人の思いがあることに多くの子どもたちが気付くことができました。環境を整える事業においても、自分たちの学校や地域を大切に思う大人の存在に子どもたちは改めて気付き、感謝する気持ちを育てることができました。

来年度に向けて

本年度の成果をふまえ、継続して行う取組は子どもたちにとってよりよい内容のものを考えていきたいです。また、今年度の新たな取組については、その効果をふまえ、事業に取り込んでいきたいとします。地域の「いつでも協力をする」という声もあります。外部人材の活用も含め、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきたいです。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

- ・地域の中で、さまざまな役割やその大切さ、自分の存在感に気付き、未来への夢や希望を持つ心を育てる。
- ・学校、家庭、地域での豊かな体験を通して、正しい判断力を養い、自己の生き方について考えを深め、自ら進んで実践できる力や態度を育てる。

今年度の取組紹介

<大宮まつり

キッズニア in 大宮まつり>

- ・「子ども盆踊り」を楽しむ地域の方とともに遊ぶ、模擬店で買い物をする、模擬店の手伝いをするなど、計画を含め、祭りに参加・参画することで、地域の人たちとふれあい、体験を通して自ら進んで実践できる力を培いました。

<ふれあい会>

- ・地域の高齢者を招いて、6年生が学習のまとめの発表会を行い、質疑応答などで交流を図りました。

<長なわ大会>

- ・3分間で何回長縄を飛べるかをクラス対抗で競います。チームワークの獲得を主眼とし、向上心も育つことを狙いとしています。

<健康かけ足>

- ・一人一人が自分の目標を定め、各自の限界に挑戦し、乗り越えることで、達成感を感じさせ、自尊感情の醸成につながる取り組みとして進めました。

<お話の会>

- ・学期に一度、全クラスで「お話の会」の方に読み聞かせをしてもらうことで、豊かな気持ちが育ち、情緒が安定することを目的として取り組みました。

<ガンバ読書>

- ・週2回、朝10分間全校一斉の読書タイム。豊かな心、優しい気持ちが育つ。

<人権教育講演会>

- ・慶應義塾大学中室牧子准教授をお招きし、「教育に科学的根拠を」と題し講演会を実施しました。総勢300名の参加があり、非認知能力が将来の成功につながるという内容に、参加者の多くが熱心に耳を傾けていました。

<図書ボランティア>

- ・図書室の環境を整えたり、図書の修理をしたりして、読書環境を整えていただきました。

<学校園応援サポーター>

- ・地域の名人さんに学ぶ学習、戦争・昔の大宮の様子、見守り活動など、児童の学習の支援を行いました。



今年度のまとめ

- ・地域の方々との交流や協働を通して、多くの人とのつながりの中で生きているということに気付き、大宮を誇りに思い、大宮小学校で学んで良かったと思える児童が増えてきています。また、地域主体のキャリア教育である「キッズニア in 大宮まつり」等を通して、自分もこの大宮の地域の一員であることを自覚するとともに、自ら考え、行動する児童の育ちを感じることができました。
- ・高齢者の方々とのふれあいを通して、地域の方に喜んでもらえることは自分の幸せにつながるということに気付き、地域のためにできることを考えていこうとする意識が醸成されつつあります。

来年度に向けて

- ・児童がアイディアを発信し企画などに参加・参画していく活動を、地域の方々と協働で一層充実させ、今後も継続して、自分たちができることを考え、行動できる児童の育成を図りたいです。
- ・今後さらに地域の方と一緒に活動する場面を多くし、大宮を誇りに思い、大宮小で学んで良かったと思える児童を増やす取組を行っていききたいです。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

「わたし大好き あなた大好き 学校大好き わが町大好き」
と思える自尊感情をもつ児童の育成

今年度の取組紹介

本校の取り組みの特色の1つであるのが、「雅楽体験」を中心に据えた音楽教育を活用した教育活動です。11月に行われる「川辺のまちづくり」のオープニングを飾る6年生による演奏発表に向けて、南都楽所の講師先生の指導も受けながら、子どもたちの自主的な練習活動も促しつつ、今年度も取り組むことができました。日本の伝統芸術文化を体験できる貴重な機会になっているのはもちろんですが、4年生の「まほろば文化祭」や5年生の「市音楽会」といった舞台発表に向けた《縦割り活動》として、6年生・5年生がそれぞれ下学年の指導に自主的に参加する流れの中、大西小の伝統を受け継ぐ誇りや責任感を育むと共に、



それぞれの立場における達成感を味わうことができています。

また、本校の前を流れる佐保川とその自然環境をテーマにした「佐保川環境学習」にも継続して取り組んでいます。1学期の3年生佐保川環境学習に地域の方



を講師としてお招きし、自らが住む「ふるさとの川」としてのお話を聞く取り組みも定着しています。11月の「川辺のまちづくり」と並行して行う川辺の学習会には今年も数多くの児童が参加し、保護者・地域の方とともに魚や水辺の生き物を捕獲し観察しました。タモロコなどの多様な生物が生息している佐保川の環境のすばらしさを講師先生にほめていただき、参加者一同、とてもうれしく思いました。

今年度のまとめ

豊富な行事に学年間で参加体制を調整し、地域の環境保全の取組や行事を各学年の教育課程に効果的に組み込んで実施できました。美しい佐保川の川辺で四季を通じて集えるのは、「佐保川清掃」をはじめとする日頃の様々な取組があつてのことという保護者・児童の意識の広がりをもさらに定着させていきたいと考えています。

また、一年を通してクラブ活動・体験学習・読書活動・実技指導支援等幅広い内容で地域の方々に協力していただき、充実した学習活動が展開できました。第5回目を迎えた校区成人式ではなつかしい校舎に集い、地域の方とともに和やかなひとときを過ごしました。

来年度に向けて

地域の高齢化などに伴い、地域人材の確保が厳しくなっている状況があります。今年度から始めた「地域ボランティア募集」の呼びかけをさらに充実していきたいと思えます。また、各取り組みを今後も継続して無理なく発展・充実させていく上でも、検証・改善を行いながら、来年度も地域・学校・家庭が一体となり、『ふるさとを誇りに思い、大切に作る心』を育んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

地域にある自然環境や文化的歴史遺産、さらには、地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物にやさしく、地域を愛する子どもを育む。

今年度の取組紹介

①佐保川清掃

佐保川の環境を守る活動として、地域の方々と共同で取り組む佐保川清掃は、生きた学習環境を提供してくれる佐保川をみんなで大切にする心を育みます。そして、地域の方々とこの気持ちをつなげる大切な取組でもあります。今年度も、本校児童と教職員、地域の各種団体から合計300人以上が参加して、5月20日(土)に佐保川のゴミ拾いや草刈りを行いました。



②とんど焼き

児童支援団体「チェリーネット」、自治会、PTAの皆さんの協力で、今年も1月15日(月)に学校の行事として、とんど焼きを行うことができました。行事のお知らせから竹の切り出し、わらの手配、竹組み、正月飾りの処理など、様々な準備を共同で行うことができました。全校児童が見ている中、大きな炎が燃え上がりました。初めて竹のはぜる音を聞いた子どもたちは、その音にも驚いていました。地域行事を学校行事として行うことで、子どもたちと地域の協力者との距離もぐっと縮まりました。



今年度のまとめ

登下校時の見守り活動を始め、昔遊び体験のお手伝い、平城宮跡でのマラソン大会における安全確保のための引率などを通して、子どもたちがより身近に地域の方々と接し、感謝の気持ちを育てる取組を進めることができました。今後も、地域と学校との繋がりが見える形となるよう行事や事業を進めていきたいと考えます。

来年度に向けて

地域の方々からの多くの支援のおかげで、子どもたちの学習活動や学校行事は成り立っています。今後も、コミュニティスクールとして小中一貫教育を推進する上で、地域の各種団体や自治会などとの連携を密にし、佐保川小学校の校区を愛し、校区に誇りをもつ子を育ててきたいと考えています。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

- ・ 様々な体験活動を通して、豊かな感性やたくましい心と体を育む。
- ・ 楽しみながら体を動かしたり、集団で遊んだりする機会を持ち、体力や運動能力の向上を目指す。
- ・ 地域の環境や人材をいかしながら、人と触れ合う楽しさやコミュニケーション力の向上を目指す。

今年度の取組紹介

◆くふれあい地域連携事業より>

『生け花を楽しもう』では、地域のゲストティーチャーの方が分かりやすく生け方を教えてくださり、また今年は地域の協力を得て、竹を花器に使用し、子どもたちは自分で竹や花を選び、自由な発想で楽しみながら生けていました。園内作品展に展示し、保護者や地域の方にも褒めていただき、子どもたちの自信につながりました。



『園外保育の引率』では、学校園応援サポートの方と一緒に出かけること、身近な地域を知ると共に、地域の方へ親しみをもち、自ら声をかけるなど安心してかかわっています。

◆く子育て支援事業より>

体力や運動能力の向上をめざし、日々の遊びだけでなく、地域のゲストティーチャーを招き『げんきっこクラブ』を計画的に位置づけています。今年は講師を招聘して大宮小学校の体育館で親子触れ合い運動遊びを実施し、伸び伸びと体を動かす楽しさを味わいました。保護者からは「家でもやってみたい。」「子どもとしっかり体を動かし、楽しめた。」など触れ合いを通して、体を動かす大切さを意識した意見が聞かれました。これらの楽しい経験もあり、子どもたちは日々の遊びの中で自ら体を動かし、意欲的に取り組み、挑戦する姿が見られています。



今年度のまとめ

- ・ 地域の方の協力を得て、多方面の様々な体験を積み重ねたことで、子どもたちの心の豊かさや自信につながっています。また、地域の方との温かいふれあい、見守りに、安心感を抱き、自らあいさつをする子どもも増えるなど、より地域の方々を身近に感じることができました。体力向上の取組では、保護者も共に触れ合い遊ぶことで、体を動かすことの大切さについての啓発にもつながり、子どもたちも体を動かすことを喜び、主体的に取り組む姿が見られています。
- ・ 保護者の園教育アンケートの結果では、事業の取組について高評価を得ています。また運営委員会を通じて事業を振り返ることでコーディネーターや地域の方から積極的な意見や参加をいただくことができました。地域・家庭・幼稚園の連携を深めながら、子どもたちの学びを支えていくことにつながりました。

来年度に向けて

- ・ 地域の方々の協力や支援により、子どもにとって豊かな体験ができています。今年度の成果を踏まえ、今後も事業を継承しつつ、目指す子ども像に向けて地域・保護者・幼稚園が一体となって、更なる保育内容の工夫や活動の充実を図っていきたいと考えています。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

様々な環境と触れ合い心を動かす感動体験を通して、豊かな感性やたくましい心や体をはぐくむための遊びの創造。

今年度の取組紹介

〔体力づくり事業〕

自転車での通園、家庭では歩く機会や戸外で体を動かして遊ぶことが少ないという実態がみられたため、体力向上を目指した活動（かけ足・縄やボール遊び・鬼ごっこ・巧技台を使つての遊び・園外保育等）を計画的に保育に取り入れてきました。地域の方の協力を得て、グラウンドゴルフ・体操教室・チャレンジクラブ・親子触れあい遊びなどを実施しました。体を動かすことの心地よさを感じ、地域の方の丁寧な指導のもと、元気よく体を動かして遊ぶことができました。

〔英語触れ合い事業〕

今年度より、小学校で英語を教えておられる先生に来ていただき、“プレ・ハローイングリッシュ”を実施しました。簡単な挨拶・英語の歌・手遊び・色等教えていただきました。

5歳児は友達同士で「ハロー」と言い合ったり、「赤はレッド、緑はグリーン」と、得意げに話したりする姿もみられ、興味を持って先生の英語を聞いていたようでした。特に英語のみの絵本を読んでいたいた時は内容を理解しようと集中して聞いていました。5歳児は劇遊びの中に教えていただいた英語の会話も取り入れました。



今年度のまとめ

地域の方々と様々な経験をすることで、遊びの幅も広がりました。体験したことを遊びに取り入れ、友達と協力、相談しながら意欲的に遊ぶようになり友達同士のつながりも深まりました。鉄棒や縄跳びなど苦手なこともできるようになりたいと、繰り返し練習し最後まで頑張る強い心や健康な体が育まれ体力向上にもつながりました。また、コミュニケーション力が身につき、進んで挨拶をする、話しかける、思ったことを伝える等の姿も多く見られるようになりました。園だよりやホームページ・写真の掲示・地域の会合で知らせる等、様々な方法で地域や家庭へ園教育を発信したことで、園児の成長を身近に感じてくださり、積極的に関わってくださることにつながったものと考えます。

来年度に向けて

地域の特色を活かした“地域とともにある幼稚園”を目指して、地域の方の意見も伺いながら今年度の取り組みを継続し深めていきたいと考えます。保護者の方も地域を好きになってもらえるよう、園児の成長を伝えながら地域資源（人・物両方）のよさをもっと発信していきたいと思います。